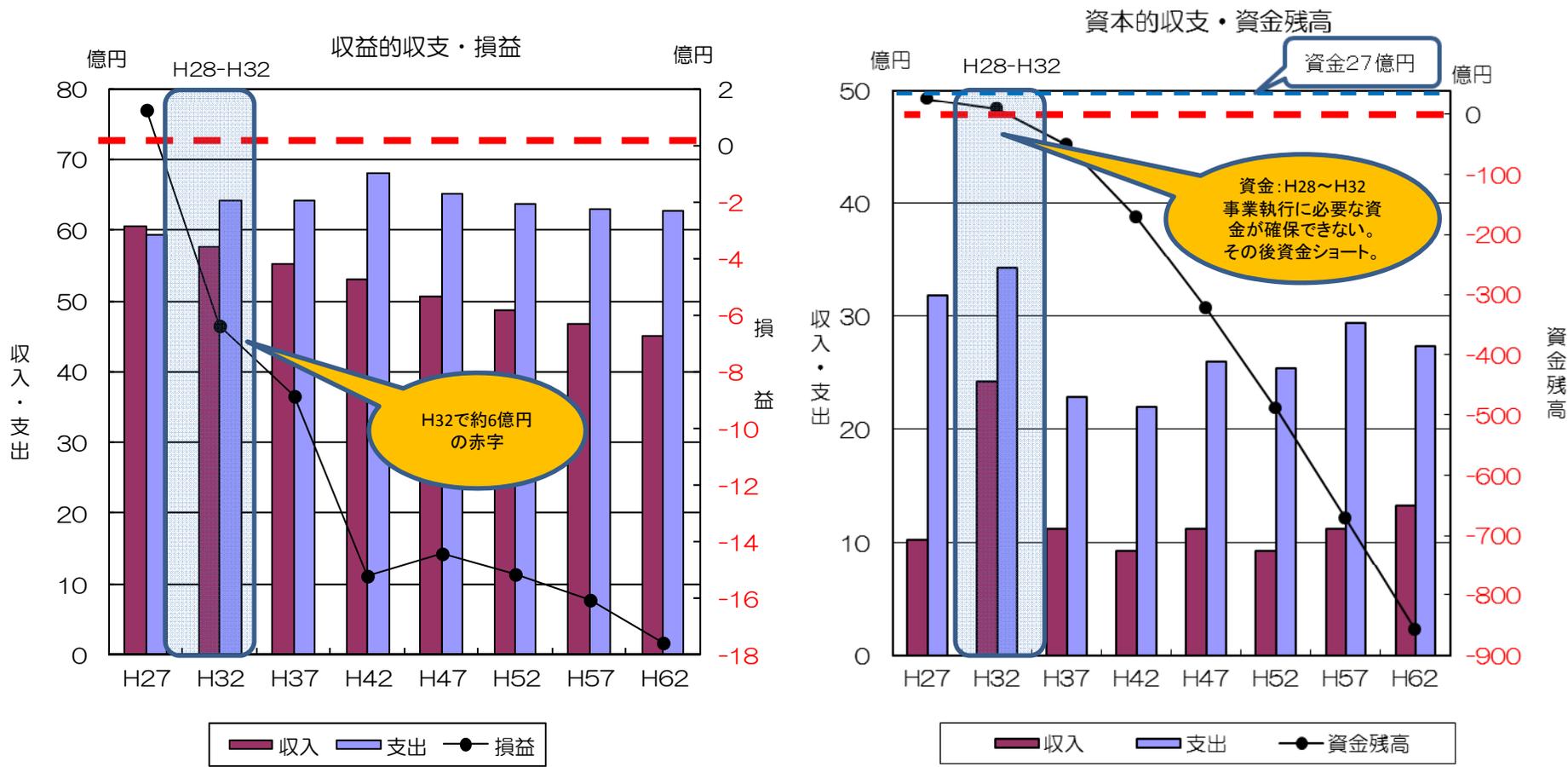


更新需要額とその財源について

- シミュレーション 1
現行料金水準を維持し企業債発行を 9 割にした場合の将来財政推計
- シミュレーション 2
料金算定期間5年（35%の料金改定）を設定した場合の将来財政推計
※前回お示しした35%値上げのシミュレーション
- シミュレーション 3
料金算定期間10年（22%の料金改定）を設定した場合の将来財政推計
- シミュレーション 4
企業債発行割合を変化させた場合の将来財政推計

シミュレーション 1

料金改定をしないで現行料金水準を維持した場合
 企業債発行 工事費の9割を借入(企業債を最大限活用)した場合



資金：水道事業を継続していくために必要な運転資金

シミュレーション 2

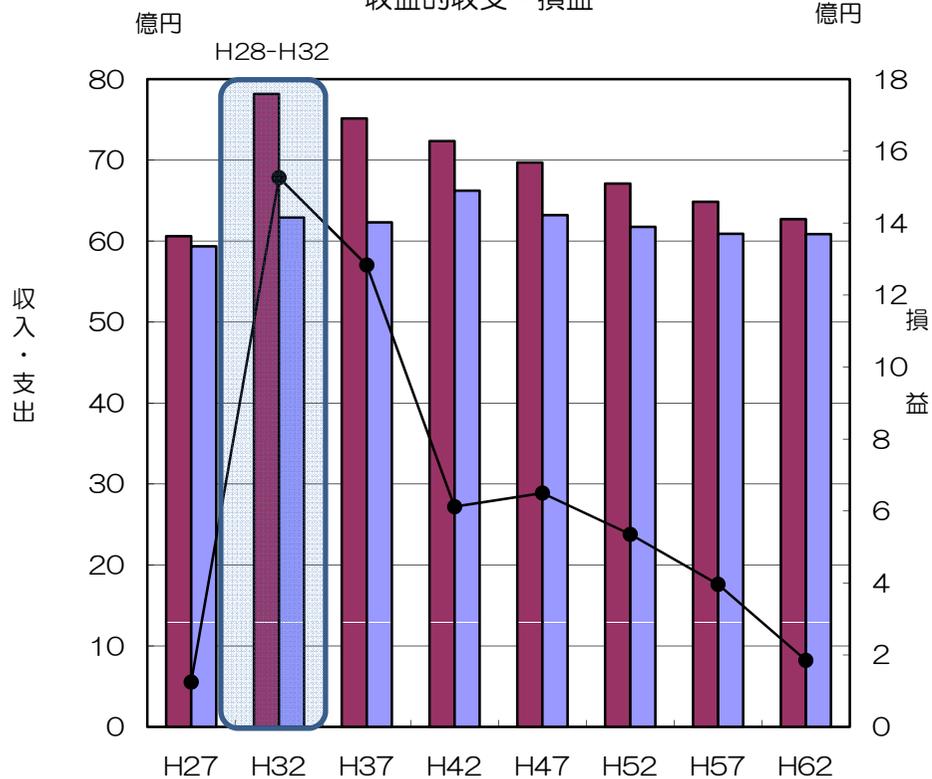
料金算定期間 H28年度～H32年度(5年間)
(2016年度～2020年度)

企業債発行 工事費の4割

資金残高 27億円(平成27年度末推計水準)
約35%の値上げ

前回の経営審議
会でお示した
約35%値上げ
のシミュレ
ーション

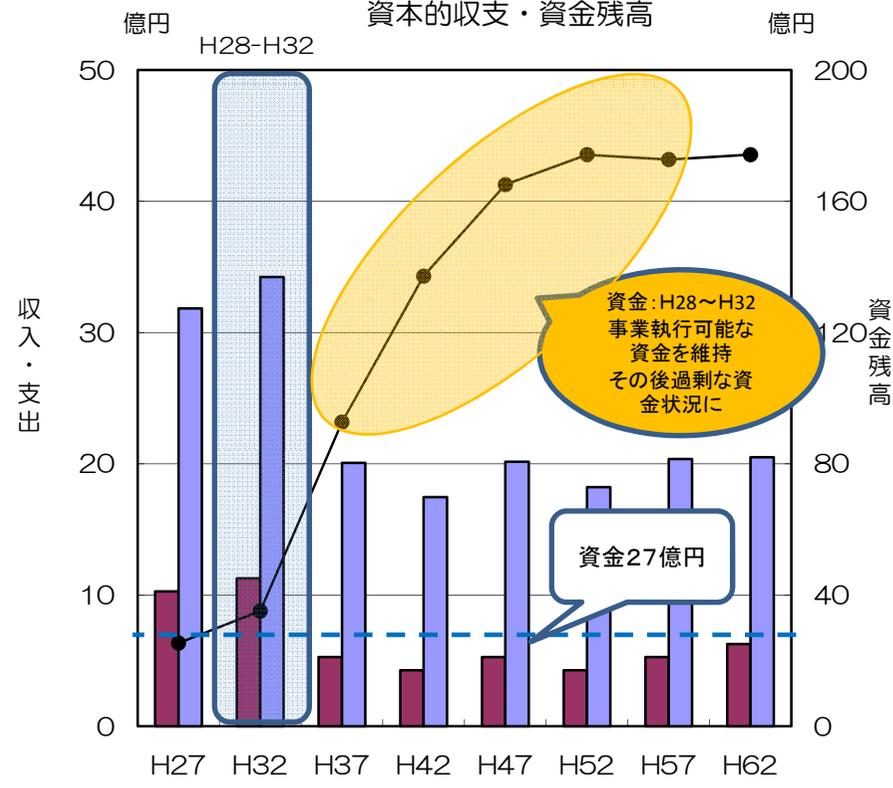
収益的収支・損益



■ 収入 ■ 支出 ● 損益

運転資金の増加:
収益的収支における利益(黒字)
+ 減価償却費等 - 資本的収支不足額

資本的収支・資金残高



■ 収入 ■ 支出 ● 資金残高

資金: 水道事業を継続していくために必要な運転資金

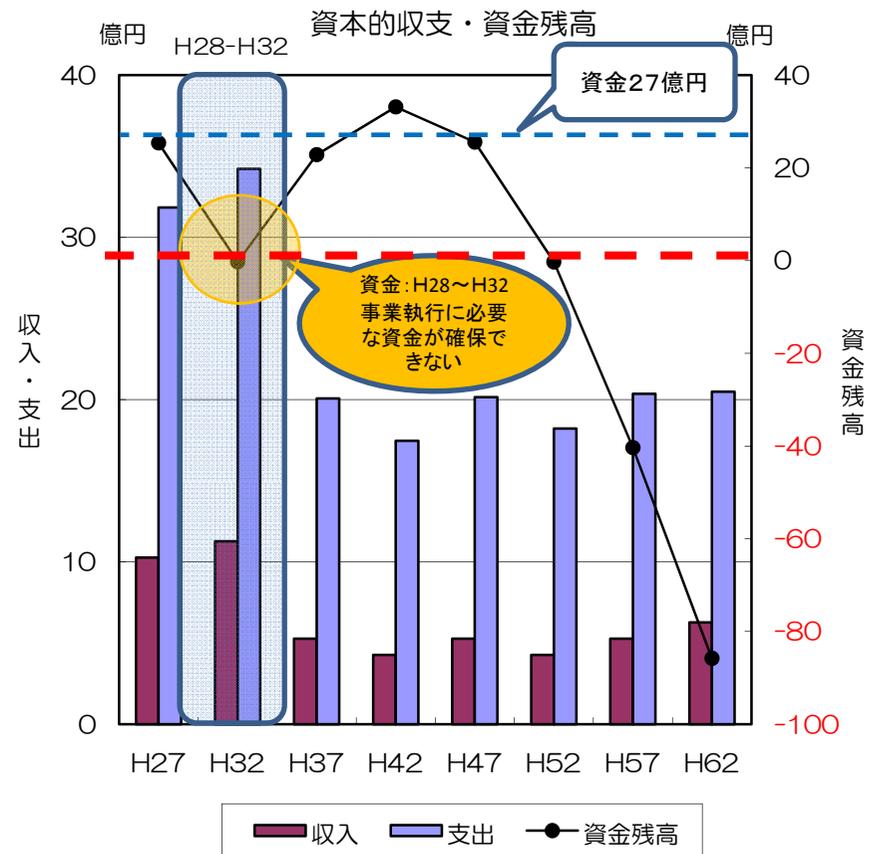
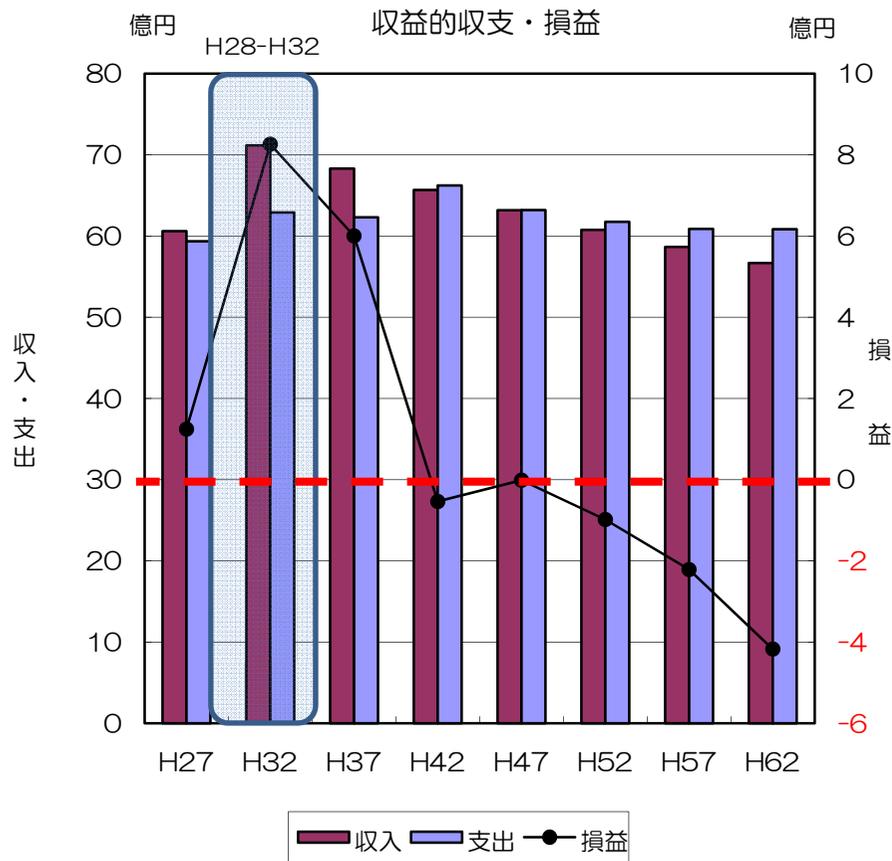
シミュレーション 3

料金算定期間 H28年度～H37年度(10年間)
(2016年度～2025年度)

企業債発行 工事費の4割

資金残高 27億円(平成27年度末推計水準)

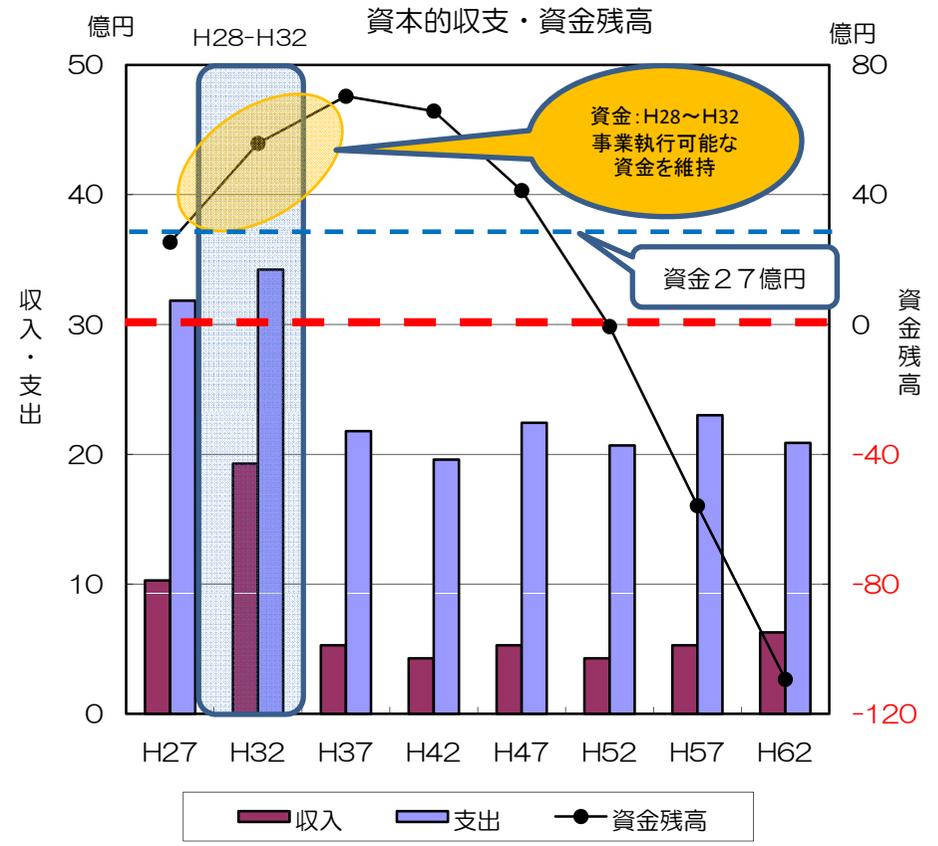
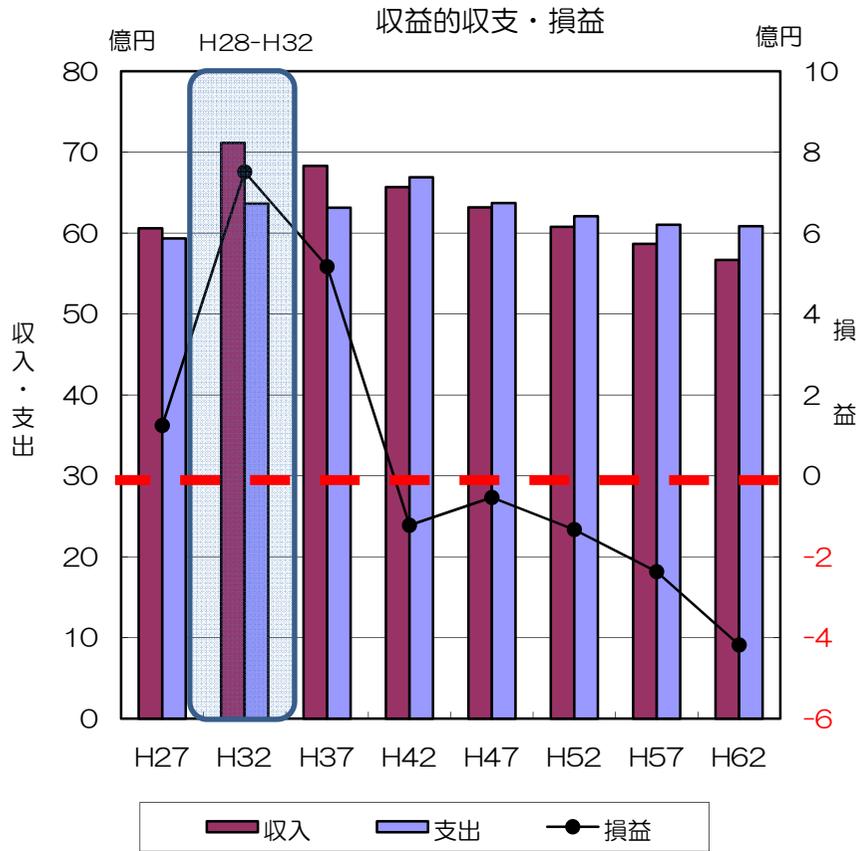
約22%の値上げ



資金：水道事業を継続していくために必要な運転資金

シミュレーション 4

料金算定期間 H28年度～H37年度(10年間)
 企業債発行 H28年度～H32年度 工事費の7割
 H33年度以降 工事費の4割
 資金残高 27億円(平成27年度末推計水準)
 約22%の値上げ



資金：水道事業を継続していくために必要な運転資金

シミュレーションのまとめ

料金改定率および 料金算定期間 企業債発行	0% (改定しない) —		約35% H28年度～H32年度		約22% H28年度～H37年度	
	収益的収支	資金残高	収益的収支	資金残高	収益的収支	資金残高
工事費の9割 (H28～)	シミュレーション 1		—	—	—	—
	H29年度以降ずっと赤字	H29年度以降事業執行に必要な運転資金を確保できない (H34年度には資金ショート)				
工事費の4割 (H28～)	—	—	シミュレーション 2		シミュレーション 3	
			40年後まで黒字を維持	建設改良事業費が減少する H33年度以降は資金残高が過剰	H41年度ごろまでは黒字を維持	H28～H32の事業執行に必要な運転資金を確保できない (H31年度には資金ショート)
工事費の7割 (H28-H32) 工事費の4割 (H33～)	—	—	—	—	シミュレーション 4	
					H40年度ごろまでは黒字を維持	H48年度ごろまでは必要な運転資金を確保できる